

ゆっくり走ろう北海道

堂垣内尚弘
北海学園大学教授
(前北海道知事)

Let's Drive Slowly in Hokkaido

Naohiro DOGAKINAI

Professor, Hokkaigakuen University
(Former Governor, Hokkaido Prefecture)

「やさしく走ろう東京」の“やさしく”とは具体的にどういう意味だろうと友人に聞いてみても、何となく判るが、どうもすっきりしないでいたところ、「交通工学第5号」で、片平信貴交通工学研究会会長の「Drive Softly TOKYO」を読み納得した。かつて私は(といっても20数年前)7年間、大学生に講義したことがあるが、担当は交通工学で、そのうち交通安全のためには、3E、即ちEDUCATION(教育)、ENFORCEMENT(規則)、そしてENGINEERING(技術・施設)の3つを総合的に押し進める行政や運動が行われなければならないことを説いてきた。

また、私が北海道知事に当選した昭和46年、道内1年間の自動車事故による死者数は889人。全国一は勿論、北海道でも過去最大の数であったから、私はこの不名誉な記録をまずなくすること、そして、特に多い老人や子供の被害の軽減、若い人達に多い無暴運転の絶無、それに道路建設や管理規制に当る側の積極的な施策の強化を力説して、このための運動も種々進めてきた。しかし、この効果たるや残念ながら期待通りになっていない。まずこの悪名高い交通事故死全国一は、3期12年間のうち、ただの1回(昭和49年ワースト5位)しか破れなかった。毎年1月末、全国都道府県中10位ぐらいから始まるが8~9月、早い年は6月に全国一になってしまう。昭和52年には475人で46年の53%まで縮め得たが、この数年は500人を突破しているのが実情である。この数字は、工学的な統計でないこと、人口は全国の5%だが、面積は22%を占める北海道であるから、これと一般の県と比較されることに多少疑問をもつとしても、何としても情けない次第である。

さて冒頭の“やさしく走ろう東京”に対し現在でも、到るところ“ゆっくり走ろう〇〇〇”という自動車のステッカーを見ることが多い。そこでその由来をご紹介したい。交通安全行政に協力して、どの県にもあるように、本道でも「交通安全道民運動推進委員会」があり、活発に運動を展開しているが、ちょうど昭和48年秋、この委員会で「交通事故死絶滅運動」の重点目標としてのスローガンが種々検討され、最終的に採用されたのが「ゆっくり走ろう北海道」であった。そして、翌49年の運動からはステッカー、腕章、印刷物に大々的に用いられるようになったが、これは北海道にピッタリするものとして、またたくまに本道内で爆発的人気呼んだ。永年開発予算にとり組んできた私は、ときどき友人達に、この「ゆっくり」は道予算にも響いてくるだろうと、笑いながら語ったこともある。

この「ゆっくり走ろう北海道」は意外にも現在、本州各地で広く利用されているのは愉快なことで、本州でこのステッカーを見ると楽しくなってくる。数年前、調査させたところこのステッカーを用いている都府県や、市、町の数30を超えた。いずれにしても、自動車事故を何とか減少させるための努力がますます必要になってきた。そのひとつとして、安全ベルト着用への規制、罰則等を早期により的確に決めるべきだと考えている。最近欧州を廻って、少なくとも、運転者、助手席の人に、この種の違反に対する罰金、罰則の強化ぶりをこの目で見てきたからである。

私は今秋から「交通工学」を再び学生に教えることになったが、この中で交通安全については特に熱を入れたいと思っている。

原稿受理：昭和58年8月27日